

3月8日国際女性デー

今年も、歩く国際協力 「Walk in Her Shoes 2024」が始まります

水汲みのために毎日歩かなければならない途上国の女性や女の子たちの身になって歩く、シンプルで健康的なキャンペーンの歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2024」は、今年で13回目を迎えます。エントリー後、歩いた歩数500歩につき1円が協賛企業から寄付される参加方法を軸に、CAREの「C」や、今年から加わった「水」に関係する写真をSNSに投稿するだけで、1枚につき100円が寄付になる企画なども。さらに、3月23日の「世界水の日」チャリティウォークほか、今年は参加者みんなでGPSアートに挑戦する新しい企画も進めています。

また、キャンペーンオリジナルTシャツは、公募により決定した新デザイン。人種や性別を曖昧にしたイラストを通じて、「国や性別、年代を超えて幅広く参加できるキャンペーン」であることが表現されています。オンラインでお買い求めいただけます。詳しくは、当財団サイトをご覧ください。

誰もが気軽に取り組める国際協力として、多くの皆さまと一緒に「Walk in Her Shoes（＝彼女たちの身になって歩く）」を推進していけることを、事務局一同楽しみにしています。



© CARE Madagascar



国際女性デー 2024 オンライン写真展「水 x 投資」を開催します

女性に投資を。さらに進展させよう。

今年の国際女性デーのテーマは、「女性に投資を。さらに進展させよう。」です。このテーマを踏まえ、当財団が企画する本展では、特に、水への投資によって躍進する女性たちを紹介します。ぜひ、当財団が事業を通じて行っている水にまつわる投資によってエンパワメントされた東ティモールやネパールの女性と女子たちの姿をご覧ください。

会期：2024年3月1日（金）

～同年3月31日（日）（予定）

会場：当財団サイト



© Josh Estey/CARE

スタッフ紹介



財務・総務担当
日野陽子

2023年6月から財務・総務部に所属しています。大学では社会福祉を学び、卒業後は障がい者の地域生活支援、ECサイト運営・流通などのスタートアップ企業で、総務・経理、オンライン通販の運営、営業などさまざまな業務に携わってきました。国際協力NGOは未経験のフィールドで、学ぶことの多い日々を過ごしています。近年は世界的に軍事的衝突や災害が多く、日本でも元旦に大災害が起きてしまいました。多くの方が、CAREを通して思いを届けてくださることに、いつも感銘を受けています。



個人寄付担当
七島寛子

中央アジアのキルギスでデザインボランティアとして現地製品のブランディングやデザイナー育成に携わっていました。そこでは主に女性へ就業機会を提供していたこともあり、「女性と女子を活動の中心にする」CAREの活動に共感して入局しました。

CAREではマーケティング部の個人寄付担当として、クラウドファンディングや東京マラソンチャリティランナー対応などを行っています。困窮している女性や女子が希望ある未来を描けるよう精一杯活動に取り組んで参ります。

個人支援者専用ダイヤル TEL:03-5499-9931

CARE アクションする

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階

TEL:03-5950-1335 FAX:03-5950-1375

E-mail: info@careintjp.org Website: www.careintjp.org

Facebook: www.facebook.com/CAREjp Twitter: https://twitter.com/CAREjp

※小誌へのご意見、ご感想を募集しています。
発行元までお寄せ下さい。

※このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREの
デザインボランティアの会田ひとみ様のご協力により、制作されています。



CARE World

Vol. 46 ケア・インターナショナル ジャパン
Newsletter February 2024



ケア・インターナショナル
ジャパンは、世界100か国
以上で人道支援活動を行う
国際NGO ケア・インター
ナショナルの一員です。
災害時の緊急・復興支援や
「女性や女子」の自立支援
を通して、貧困のない社会を
目指しています。

Contents

page 1 事務局長就任のご挨拶

page 2 ネパール：遠隔地の学校における
教室改修支援事業

page 3 モロッコ地震被災者緊急支援事業

page 4 歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2024」
国際女性デー オンライン写真展「水 x 投資」

事務局長就任のご挨拶



公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパンを常日頃よりご支援いただき、厚くお礼申し上げます。この度、当財団の事務局長に就任した児玉光也です。河崎前事務局長からのバトンを受け、その重責

に身が引き締まるとともに、新しい挑戦ができることに大きな期待と喜びを感じています。

CAREは、貧困のない、すべての人々が尊厳をもって安心して暮らせる、希望に満ちた、包摂的で公正な世界を目指すことをビジョン（展望）に掲げ、人々の命を守り、貧困をなくし、公正な社会を創ることをミッション（使命）とし、全世界に存在する加盟組織の相互連携を通じ、100か国以上において、人道および開発の分野で「女性と女子」の自立支援を中心に活動を展開しています。

私は、これまでアフガニスタン、バングラデシュ、ハイチ、アフリカ諸国等の現場における保健医療、災害対応、国際協力の活動・研究を通じて、各地でCAREの活動を見してきました。CAREの魅力であり強みは、そのミッション（使命）、国際的連帯、そして多くの個人と幅広い企業、および国内のCARE支援組織の皆さまとの繋がりと考えています。

この強みを活かし、より多くの人々が希望に満ちた世界の実現を体感できるよう、より多くの方々に我々の活動を知っていただき、そして支援の手を差し伸べていただけるよう、取り組んでいく所存です。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

児玉光也



アフガニスタンにおける地雷除去事業視察の様子
写真提供：共同通信社

【略歴】

20年以上にわたり、世界における自然災害・紛争等に対する人道支援、国際保健、開発を中心に実務および研究を行う。国際機関およびNGOではハイチやケニア等に駐在、東日本大震災時には宮城県を拠点に災害対応・復旧復興、国内外の大学で研究・教育活動、外務省では緊急・人道支援分野の政策立案、バングラデシュおよびアフガニスタンの日本国大使館では保健、教育、地雷除去、NGO支援等の実務に従事し、2023年12月から現職。

1973年佐賀県鳥栖市生まれ。慶應義塾大学卒、英オックスフォード大学留学、東京大学大学院医学系研究科（保健学修士）。

趣味：子育て（2歳男の子）、温泉、スキューバダイビング、音楽鑑賞

新規事業 ネパールで「遠隔地の学校における教室改修支援事業」を開始しました

女子も安心して、質の高い教育を受けられる環境をつくる

活動地域	ネパール 北西部 カルナリ州 スルケート郡ビレンドラナガル
実施期間	2023 年 8 月 1 日～ 2024 年 6 月 30 日
対象者	全校生徒 362 人（男子 173 人、女子 189 人）
ドナー	株式会社えがおホールディングス
事業規模	1,300 千円



どうしてネパール・ラストリヤ校を支援するの？

希少な野生動物と手付かずの大自然が残るバルディヤ国立公園の緩衝地帯に位置するスルケート郡ビレンドラナガルの最も人里離れたところに、この事業の対象となるネパール・ラストリヤ校があります。1979 年に設立された同校には、5 歳から 16 歳までの 1 年生から 12 年生までの合計 362 人の生徒が在籍し、そのうち 22 パーセントにあたる 82 人が社会から疎外されたダリットや先住民のコミュニティに属しています。市内で唯一の学校であることから、大半の生徒が 2 時間かけて通学しています。

同校は、インフラが不足しているため、PMECs*の指標を満たすのに苦慮しています。部屋数が不足しているため、2 つの異なる学年の生徒が、多学年方式によって同じ教室で授業を受けています。また、同校は過去に 2 つの教室からなる校舎の建設に着手し、土台と屋根は完成しましたが、資源不足のため校舎は未完成のままです。その結果、生徒たちは壁のない教室で勉強せざるを得ない状況にあります。水道も通っていません。さらに、女子に配慮したトイレ也没有。長期的に見て、このことが多くの女子が退学する理由の一つとなっていることから、子どもたちが安心して、質の高い教育を受けられる環境をつくる必要があります。

*PMECs とは、質の高い学習環境をつくるための以下の 1～5 の前提条件または基本的条件を指します。
1. 適切な教室、2. 適切な生徒と教師の比率、3. 無料の教科書の適時提供、4. 女子用トイレ、5. 図書館



教室不足のため、未完成のまま使われている校舎

具体的な活動内容は？



未完成校舎の教室の改修

多学年教室から各学年の教室に分けるための壁や床工事を実施し、生徒の学習や学習成果の向上に役立つ書籍や教材を備えた図書館を開設することにより、男女の区別なく、質の高い教育を受けられる環境をつくります。



意識向上 - 月経衛生対処を含む安全な衛生習慣に関する教師と生徒への研修の実施

思春期にある男女生徒に対しリプロダクティブ・ヘルスと月経期における衛生管理についての研修を実施します。同時に、女子生徒を対象に、再利用可能な生理用ナプキン（布ナプキン）と安全な衛生習慣に関する研修を行います。また、女子に対する暴力や差別を含め、月経にまつわる社会的慣習や古い言い伝えを変えるための、水と衛生および月経衛生管理に焦点を当てた課外活動を実施し、意識向上を図ります。さらに、新採用の教師に対しても、知識とスキルの習得のための教員用研修を実施するとともに、養護教諭に対し、学校における栄養知識や、リプロダクティブ・ヘルスを含む思春期に配慮した保健サービスに関する能力開発を行います。



生理中の女性や女子を隔離するヒンドゥー教の慣習「チャウパディ」

ヒンドゥー教を信じる一部の地域では、生理は不浄なものとされ、生理中の女性や女子にはさまざまな制限があります。その一つが家の母屋からの隔離です。牛小屋などへの隔離は違法であるものの、この事業を行っている地域では、現地メディア*によると、いまだに 91 パーセントの女性や女子が生理中に何らかの制限を受けています。感染症、蛇にかまれる、一酸化炭素中毒、凍死などによって、いわゆる「生理小屋」で命を失う女性数は少なくないのが現状です。
*2023 年 1 月 7 日付け英字ニュース「ザ・ライジング・ネパール」



▲倒壊の危険性があるため使用されていない第一校舎（左）と同じく古くなって使用されていない第二校舎（右）

西ネパールのジャジャルコットを震源とし、2023 年 11 月 3 日にマグニチュード 6.4 の地震が発生したことをうけ、現地事務所は、一時的に改修作業を中断し、救援活動に注力しました。改修作業は本年 1 月第 3 週目に再開されました。本事業の活動の進捗につきましては、当財団サイトやソーシャルメディアを通じて、随時ご報告させていただきます。

緊急支援事業へのご協力をありがとうございました

2024 年元旦、新しい年の始まりに発生した能登半島地震。近年、日本に限らず世界各地で大規模な地震が相次いで発生していることをうけ、CARE は、各地の現地事務所と連携して即時に対応を行っています。昨年発生したモロッコ地震もその一つです。

モロッコ地震被災者緊急支援事業

2023 年に新たに CARE のメンバー国として加盟したモロッコで、同年 9 月、アトラス山脈が走る中部の内陸部を震源とした地震が発生。CARE は、この地震をうけ、震源地に近く、最も被害の大きかった山間部に位置するアル・ハウズ県アウトガール村を中心に支援活動を展開しました。



最も支援の届きにくい場所、最も弱い立場におかれた人々に支援を届ける

アウトガール村の 160 世帯の人々に対して、石けんやタオルなどの衛生キットのほか、赤ちゃん用おむつ、毛布や食糧品などの支援物資を通じて、総勢 9,106 名に支援を届けました（2023 年 12 月時点）。



現地事務所では、この冬が終わるまでに、アル・ハウズ県の 56 の村の 6,000 世帯およそ 3 万人に支援を届けるべく活動を加速しています。これまでに、越冬支援として、1,450 世帯のおよそ 7,250 人に、毛布、マットレス、寝袋、帽子、靴下などの防寒キット、ジェルター修理用品、衛生キットを配布しました。

▲ 袋には、現地の食文化に配慮し、トマト入りツナ缶、トマトソース、パスタ、レンズ豆などの食糧も



早い段階から心のケアを人道支援活動に組み込む

被災によるトラウマの影響を軽減し、いち早く回復へと導くため、早い段階から、現地のパートナー団体「MDM」と協力し、被災したコミュニティに心のケアを提供。これまでに 3,423 名に「心のケア」のサポートを届けました。

被災者に寄り添うスタッフ▶



ジェンダーに配慮した CARE の緊急支援



© Nadir Houboub/CARE Morocco

▲ 崩壊した自宅前で佇むファティハさん。地震後、祖母の家に避難した娘二人の心の傷を案じています。

皆さまの支援に感謝を申し上げます

地震発生直後からおよそ 3 か月にわたり実施した「モロッコ地震被災者緊急支援募金」に対し、当財団全体で 1,637,841 円のご寄付をいただきました。

「トルコ・シリア地震被災者緊急支援募金」へのご協力もありがとうございました。



© Tarek Sateia/ CARE

前号（CARE World 45 号）でお伝えしました「トルコ・シリア地震被災者緊急支援」への募金につきましては、当財団全体で 6,457,543 円のご寄付をいただきました。ご支援くださった皆さまに、心より感謝申し上げます。この 1 年にわたり行った支援活動につきましては、別途、当財団サイト等を通じてご報告させていただきます。

◀トルコ南部ハタイ県に避難テント村の前で、母の日のために描いた絵を見せてくれたメレクさん。両親は絵を描くのが大好きな娘が絵の勉強が続けられるようその方法を模索しています。

この場をお借りしまして、それぞれの募金への皆さまの
あたたかいお気持ちに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。